

キヤノン株式会社
2024年経営方針説明会

イメージンググループ

2024年3月8日

専務執行役員 イメージンググループ副管掌

戸倉 剛

Canon

本資料で記述されている業績見通し並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。
そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。
一部画像を削除しております。

イメージンググループ事業分野

イメージングの役割を「撮る・見る」から、「体験する」、「活用する」へ広げ、
新しい事業領域を作る

体験する

活用する

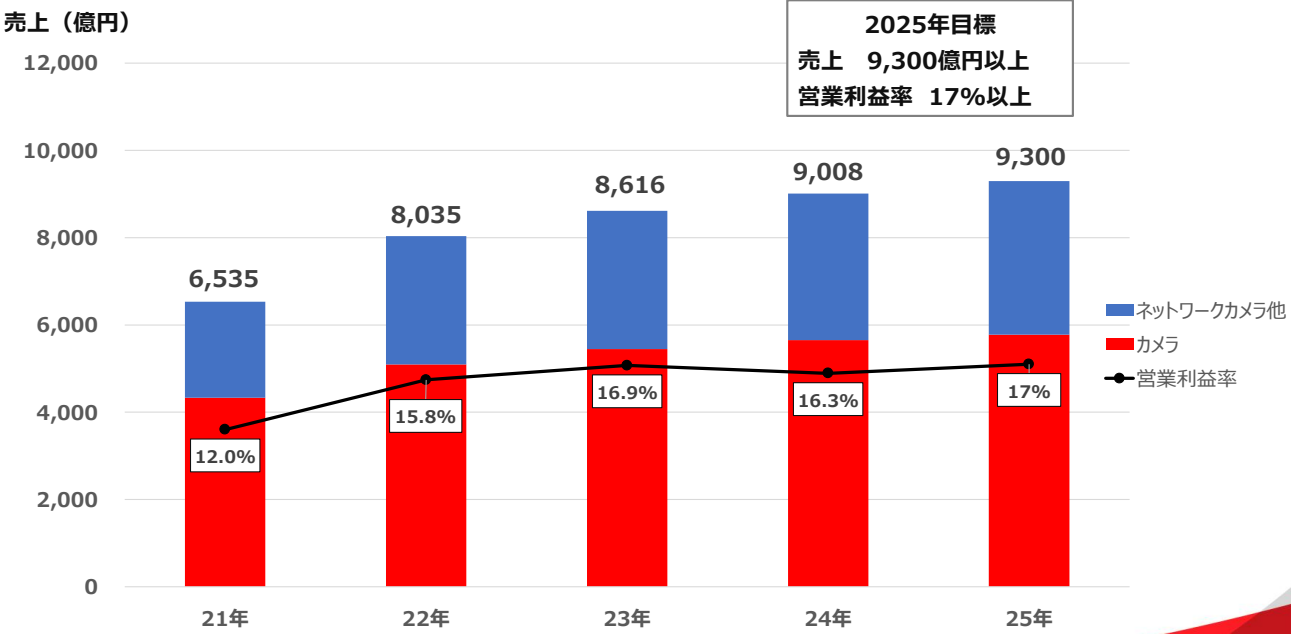


イメージンググループの事業領域です。

EOS Rシステムをはじめ、シネマEOSシステム、業務用ビデオ、放送レンズ、ネットワークカメラ等が
現在イメージンググループを支えている主な製品群です。

これらは、「撮る・見る」ことを目的として事業成長してきましたが
近年は、市場変化に対応すべく新たな技術開発を進め
この図に示しますように「映像を体験する」「映像を活用する」
「コンポーネントを活かす」という新しい事業領域への展開を図っています。

PL推移



2025年にはイメージンググループとして売上9,300億円以上、営業利益率を17%以上を目指します。

2023年の成果と課題および今後2年間の戦略・取り組み

2023年の成果と課題

■ 成果

- イメージンググループ : 大幅な増収増益 売上8,616億 (対21年+31.8%) 利益率16.9% (対21年+4.9%)
- カメラ : レンズ交換式カメラ21年連続シェアNo.1を維持
- : エントリーモデル『EOS R50』『EOS R100』を加え、EOS Rシステムのラインアップ裾野拡大
- ネットワークカメラ : アクシスが大幅な増収で売上記録を更新
- その他新規事業 : 3Dイメージング領域への取り組み強化
- : SPADセンサー搭載の超高感度カメラ『MS-500』を発売

■ 課題

1. 世界的なインフレや不安定な世界情勢の中で、成長継続と高収益性の維持
2. 2Dから3Dなどイメージングを巡る多様化する価値観、ニーズ、鑑賞形態への対応



今後2年間の戦略・取り組み

1. ミラーレスカメラ市場での絶対的な地位を確立
2. グループ連携によるネットワークカメラ事業の拡大
3. 生産性向上による利益体質の強化
4. 3Dイメージング領域への展開に向けたシステム拡充

2023年の成果と課題です。

昨年は大幅な増収増益を達成することができました。

売上は8,616億円とグローバル優良企業グループ構想PhaseⅥの初年度の21年と比べて+31.8%の増収、

また、利益率も16.9%と21年比で4.9ポイント改善しました。

カメラは、お客様に評価いただき、レンズ交換式カメラ21年連続シェアNO.1を維持しました。また、ミラーレスカメラではエントリーモデルを投入し、EOS Rシステムのラインアップの裾野を広げました。

ネットワークカメラもアクシスが大幅な増収で、売上記録を更新しました。

新規事業では「ポリュメトリックビデオ」や「EOS VR SYSTEM」など3Dイメージング領域への取り組みの強化を進めてまいりました。

さらに、SPADセンサーを世界で初めてカメラに採用した超高感度カメラ「MS-500」を発売しました。

2025年の目標達成に向けた課題の1点目は、

昨今の世界的なインフレや紛争など不安定な世界情勢の中で、どのように『成長継続』と『高収益性』の維持をしていくのかです。

2点目は、イメージングの世界は2Dから3Dへの広がりもあり人々の価値観、ニーズや鑑賞形態も多様化しています。このような市場の変化にどのように対応していくのかです。

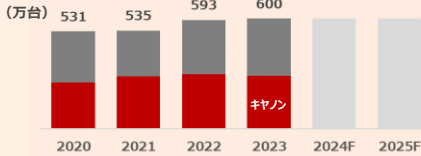
イメージンググループとしては4つの戦略・取り組みを進めてまいります。

1. ミラーレスカメラ市場での絶対的な地位を確立

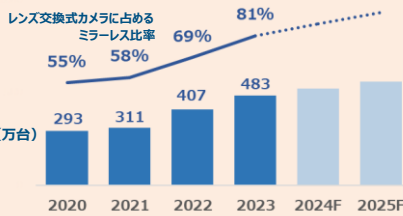
EOS Rシステムのフルラインアップ展開により、圧倒的なMLシェアNo1を実現する

レンズ交換式カメラ市場

2003-2023年
21年連続シェアNo.1

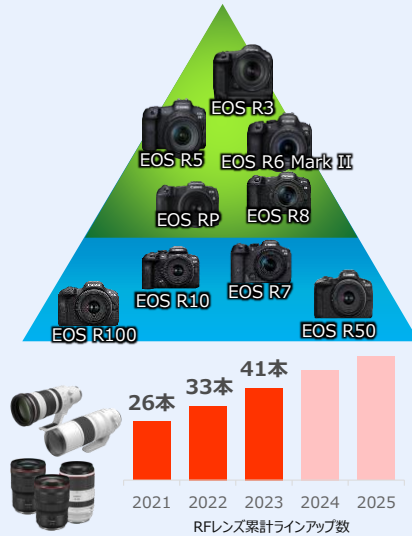


内、ミラーレスカメラ市場



出典：2020-23年 CIPA出荷数量、2024-25年 キヤノン想定

EOS Rシステムの更なる拡充



クリエイター



報道

プロサポートの継続推進

1つ目は、ミラーレスカメラ市場での絶対的な地位の確立を目指します。

シェアは、キヤノンはレンズ交換式カメラにおいて21年連続でNo.1を堅持しています。市場規模は、昨年600万台であり、今後もある程度安定して推移するものと見ています。

またその内、ミラーレスカメラ市場は、昨年はレンズ交換式カメラに占める比率が8割に達し、今年もさらにミラーレス比率は上昇していくと見通しています。このミラーレス市場においても、圧倒的なシェアNo.1を実現していきます。

そのためには、EOS Rシステムのさらなる拡充を進めます。

EOS Rボディはフルラインアップ化で臨みます。

そしてレンズでは、今まで同様に着実にラインアップを拡充してまいります。

今後も、カメラ、レンズ共に充実させ、多様なお客様の要望に応えていきます。

一方で昨今、報道系から映像クリエイター、VloggerなどのSNS配信層まで巻き込んで動画撮影ニーズが多様化、かつ増大しています。よってEOS Rシステムのカメラ本体およびRFレンズにおいて、それに応える機能の充実を図ります。

今年、欧州で行われる国際大会に向けては、参加されるプロフォトグラファーの方々とも継続的にコミュニケーションを取っております。

歴史に残る決定的瞬間を撮影して頂くために世界各国から精鋭スタッフを派遣し、豊富な機材も取りそろえながらプロの手を止めない「ゼロダウンタイム」をスローガンに業界をリードする最高のサービス・サポートを提供します。

2. グループ連携によるネットワークカメラ事業の拡大

キヤノングループのシナジーを推進し市場での地位を強化する

【ネットワークカメラ市場】

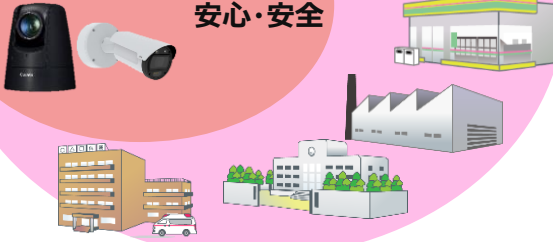
セキュリティから映像ソリューションへ拡大し2桁成長

映像ソリューション市場

生産性向上
人手不足解消
熟練業務代替

セキュリティ市場

安心・安全



【キヤノングループ施策】

ハードとソフトのトータルソリューションを強化

ハード 圧倒的なネットワークカメララインナップ

Canon

AXIS
COMMUNICATIONS



ソフト 業界屈指の映像管理・解析ソリューション

arcules

milestone

BriefCam



2点目は、グループ連携によるネットワークカメラ事業の拡大です。

ネットワークカメラは、これからも監視・セキュリティ用途での成長が見込まれていますが、それに加えて、今後は、小売り、製造、教育、医療、などの現場で、生産性向上や人手不足解消を目的にしたDX用途での映像ソリューションが広がり、合わせて2桁の市場成長が予想されています。

AXISの圧倒的な製品ラインアップと世界をカバーする販売網を軸に、キヤノンの高度な光学映像技術とMilestone、Arcules、BriefCamの映像管理・解析技術を活かし、AIやIoT連携も進めながらハードとソフトのトータルソリューションを推進し、市場での地位を強化していきます。

3. 生産性向上による利益体質の強化

最先端技術を活用し、効率的開発・最適生産の体制を構築する

【効率的開発体制】

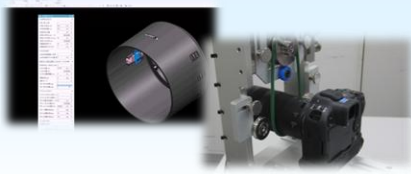
シミュレーション活用



落下衝撃

熱

自動化



【最適生産体制】

DX対応



自動化



内製化



3点目は、グループ内においてはあらゆる分野で生産性向上策を実施し利益体質を更に強化していきます。

開発部門では、各種シミュレーション技術を活用し効率的な開発を一段と加速します。

またカメラ、レンズの多機能化、高機能化は未だ進化中であり、それを評価する負荷も減ることはなく増える一方です。よって評価に関しても、自動化の対象領域を増やし生産性を上げていきます。

生産部門においてはDX化を推し進め、複雑な各種工程管理を集中制御し、効率的な生産プロセスを構築します。

また自動化、内製化については引き続き注力し続け独自のモノづくりをさらに進化させます。これにより生産性を上げるだけでなく品質の向上にも大きく寄与します。

4. 3Dイメージング領域への展開に向けたシステム拡充

入出力連携を通じこれまでにない臨場感と没入感を提供

ボリュメトリックビデオ

広い撮影エリアと
多人数のリアルタイム3D生成



3D配信有償サービス
実現・強化

EOS VR SYSTEM

Lレンズならではの
高画質VR映像撮影



コンテンツ視聴体験拡大
システム拡充

MREAL

デジタル立体イメージと
現実世界の違和感ない融合



導入領域拡大
システム拡充

4点目は、3Dイメージング領域への展開に向けたシステム拡充についてです。

当社が取り組む3Dイメージングシステムには、広い撮影エリアと多人数のリアルタイム3Dモデルを生成し再構成可能な、ボリュメトリックビデオ、高画質な180°3D VR映像を手軽に撮影可能な、EOS VR SYSTEM、デジタルの立体イメージを現実世界へ違和感なく融合し自由な視点で体験可能な、MREALがあります。

今後これら先端技術を搭載した3Dイメージング製品群の対象コンテンツ・応用分野の拡大を行いつつ、システムの拡充を進め、3D配信有償サービスも視野に入れた事業展開を図ります。

またシステムの連携により入力から出力までのシームレスなワークフローを実現し、3Dイメージングのソリューション提供に結び付けていきます。

これらにより、これまでにない臨場感と没入感をお客様へ提供し、新たな3Dイメージング市場の創出・活性化へ貢献してまいります。